

令和3年度行政評価 施策評価シート (令和2年度実績)  
 施策名 義務教育の充実

施策コード 5020201

1. 施策の担当	
主管課	教育部 教育総務課
関係課	学校教育課

2. 総合計画における位置づけ			
総合計画	政策	第2章 ひとを豊かに育むまちづくり (子育て・教育)	節 第2節 学校教育
	施策	義務教育の充実	

基本方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の学習意欲を高めるための取り組みを進めることに併せて、人と人とのふれあいを大切にしながら、地域に根差した特色ある魅力的な学校づくりを進めます。</li> <li>・いじめや不登校の問題に対しては、関係機関と連携を密にするとともに、福祉的な視点を加味した迅速かつ丁寧な対応に努めます。</li> <li>・教育の多様化と質的な向上を図るための施設整備に努めます。</li> <li>・策定された学校施設の長寿命化計画をもとに、施設の老朽化への対応を図るなど、教育環境の改善に努めます。</li> </ul>	

現況と課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育基本法等に示された目的及び目標の達成をめざし、学力面では基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るとともに、地域や児童・生徒の実態を踏まえた特色ある教育活動に取り組む必要があります。</li> <li>・児童・生徒が、自らの生命を守り、安全な生活を送るために必要な知識や能力を身に付けるための教育を推進することが求められています。</li> <li>・いじめや不登校は、どの学校でも起こり得る問題であり、学校による取り組みだけでは十分な効果をあげることができない事例もあることから、家庭、地域及び関係機関との連携を密にしながら、迅速かつ丁寧に対応することが求められています。</li> <li>・学校施設の耐震化は完了したものの、竣工後30年以上が経過し、室内環境が竣工時の状態の施設も多く存在しているため、内部改修等を年次的に進めることにより、施設の環境改善を図る必要があります。</li> </ul>	

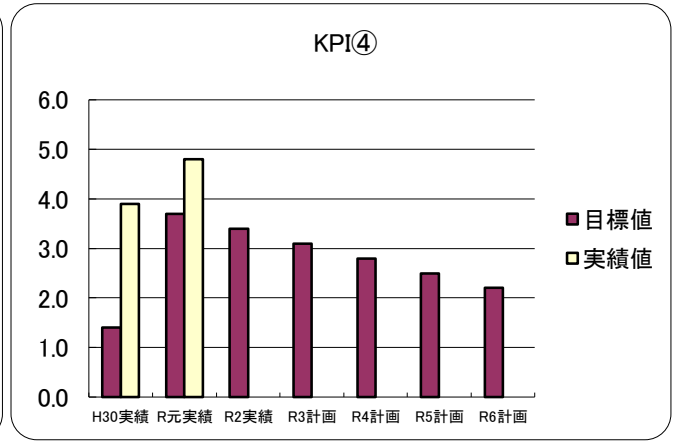
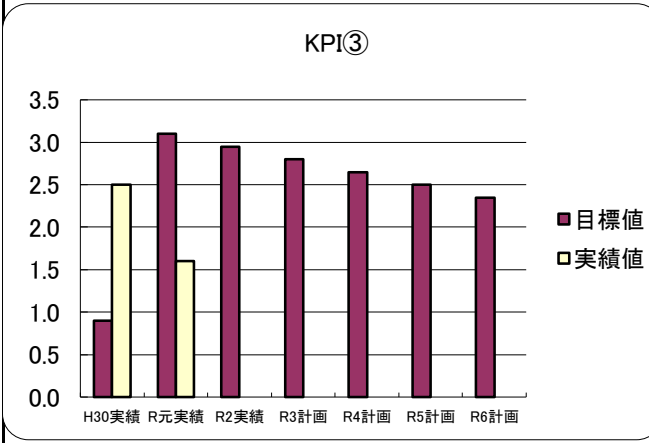
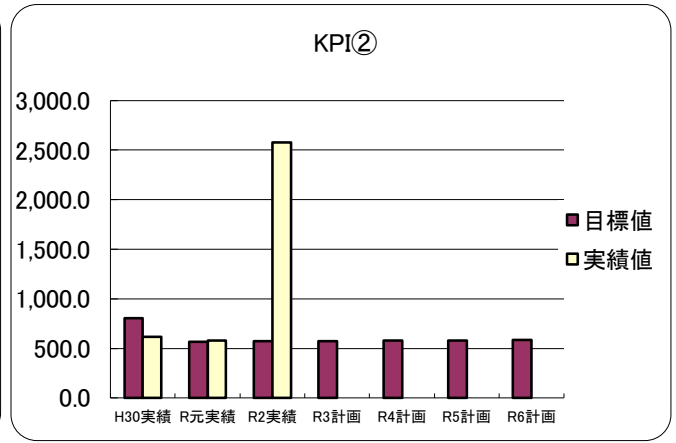
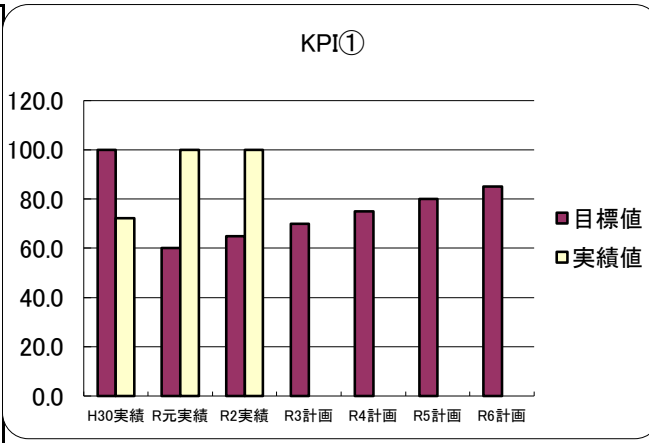
施策目標	
対象（誰を、何を、どこを）	
市立小・中学校の児童・生徒	
意図（どのような状態にしたいのか）	
学校生活が楽しいと思う小中学生の割合を高めます。	

3. 市民ニーズ							
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
満足度（偏差値）	60.1						
重要度（偏差値）	66.2						

4. 施策にかかるコスト								
		単位	R元決算	R2決算				
コストの内訳	人件費	千円	105,668	143,872				
	事業費		637,094	1,251,795				
	フルコスト		999,325	1,648,461				
財源内訳	国庫支出金	千円	49,589	246,034				
	府支出金		4,514	4,082				
	市債		43,203	0				
	その他		50,852	349,194				
	一般財源1（＝フルコストー特定財源）		851,167	1,049,151				
	一般財源2（＝直接事業費ー特定財源）		488,936	652,485				

5. 施策の重要業績成果指標 (KPI)							
① KPI 1 スクールソーシャルワーカー活用率							
項目	H30実績	R元実績	R2実績	R3計画	R4計画	R5計画	R6計画
目標値	100.0	60.0	65.0	70.0	75.0	80.0	85.0
実績値	72.2	100.0	100.0				
達成度	72.2	166.67	153.85				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
子どもたちの抱える課題に対して、福祉的な視点を持ってその解決に関わるスクールソーシャルワーカーの活用率（SSWを活用している学校÷小中学校数18）を把握することで、義務教育の充実が図られているかが分かる指標となるため。		平成29年度実績をベースに、30年度以降は、毎年5%の伸びを目標値とした。		SSWの専門性と適切なコーディネートにより新たな解決策の糸口や、課題に対する関係者の役割分担が明確になったケースが増え、学校からのニーズが高まっている。府からの派遣回数には限りがあるが、H30年度は市単費の措置としたため活用率は前年度に比べて大幅に上昇した。派遣型の活用では課題解決的な後追いの取組が中心となってしまうため、R1年度より、中学校区に各1名の配置型（計5名）の活用で未然防止の取組を進めている。			
② KPI 2 泉佐野市まなびんぐサポート実施回数							
項目	H30実績	R元実績	R2実績	R3計画	R4計画	R5計画	R6計画
目標値	805.0	568.0	571.0	574.0	577.0	580.0	584.0
実績値	619.0	579.0	2,576.0				
達成度	76.89	101.94	451.14				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
放課後学習を実施する学校に対して学習支援ボランティア等の支援実施回数を把握することで、子ども一人ひとりの学力や学習意欲の向上がすすんでいるかの指標となるため。		平成23年度は11月より7校で実施、その実績値を勘案し、25年度までに全校実施で、以後500回を目標値として設定した。令和5年度の目標を580回と設定したことにより、以降の目標値4ポイントずつ増加の目標値を設定した。		放課後学習は定着し、子どもたちの学習意欲の向上ははかられている。令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により臨時休業を行った際の、小学校での児童受入れの支援人材としても活用したため、大幅に回数が増加した。			
③ KPI 3 全国学力・学習状況調査（小学校 算数）結果の改善							
項目	H30実績	R元実績	R2実績	R3計画	R4計画	R5計画	R6計画
目標値	0.9	3.1	2.95	2.8	2.65	2.5	2.35
実績値	2.5	1.6	-				
達成度	36.0	193.75	-				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
全国学力・学習状況調査（小学校算数）の結果において、全国平均に近づくことにより、児童の算数の学力向上が図られているかが分かる指標となるため。		平成28年度の市の平均値59.5に対し、全国の平均値62.4とその差が2.9ポイントとなっていることから、令和10年度には全国の平均レベルまで上げるものとし、年間0.15ポイントずつ差を縮めることを目標としています。		まなびんぐサポート事業による放課後学習や学習支援サポートにより、基礎基本の学力にはある一定効果が出ているが、活用力の向上にはまだ課題が残るため。 ※令和2年度は新型コロナウイルスの影響により中止した。			
④ KPI 4 全国学力・学習状況調査（小学校 国語）結果の改善							
項目	H30実績	R元実績	R2実績	R3計画	R4計画	R5計画	R6計画
目標値	1.4	3.7	3.4	3.1	2.8	2.5	2.2
実績値	3.9	4.8	-				
達成度	35.9	77.08	-				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
全国学力・学習状況調査（小学校国語）の結果において、全国平均に近づくことにより、児童の国語の学力向上が図られているかが分かる指標となるため。		平成28年度の市の平均値61.0に対し、全国の平均値65.4とその差が4.4ポイントとなっていることから、令和10年度には全国の平均レベルまで上げるものとし、年間0.3ポイントずつ差を縮めることを目標としています。		まなびんぐサポート事業による放課後学習や学力向上アドバイザー等の支援人材配置により、基礎基本の定着や活用力をつける授業改善が進みつつあるが、まだ、改善途上のため。 ※令和2年度は新型コロナウイルスの影響により中止した。			

図表



6. 施策の事後評価			
	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
一次評価 (担当課による評価)	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) <b>4</b>	学習指導要領に示されている基礎力及び基本的な学習内容については、一定レベルでの定着が見られ引き続きの推進を図ってまいります。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) <b>3</b>	教育諸問題については市民のニーズも高く、教育力の向上を図りつつ、いじめや不登校などの諸問題の解決に向けて家庭・地域と連携しながらの施策の推進が必要です。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) <b>2</b>	学習指導要領改訂(小学校は令和2年度から、中学校は令和3年度から)により、新しい時代に必要となる資質・能力の育成が求められています。「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を社会と連携・協働しながら育む必要があります。
	合計点	(10点中) <b>9点</b>	
	総合評価	<b>A</b>	中学校区へのSSW(スクールソーシャルワーカー)配置により、小中学校全校での活用が実現していますが、今後も引き続き、効果的な活用を図ってまいります。また、学習意欲・学力を高めるため、さまざまな施設、事業を活用し、取り組みを推進してまいります。
二次評価(政策推進課・行財政管理課による評価)	<b>B</b>	引き続き目標値の達成に努めること。	
三次評価(理事者による評価)	<b>B</b>	引き続き目標値の達成に努めること。	

7. 施策を構成する事務事業							
事務事業			R2年度決算額			R3年度予算	一次評価
予算コード	事務事業名	人件費	事業費	一般財源			
1	01042401	中学校管理運営事業	5,761	221,432	47,490	0	B
2	01046101	中学校健康管理事業	2,004	9,895	9,055	0	B
3	01046601	中学校教材整備事業	5,646	28,636	14,960	0	B
4	01047100	学校教育研究事業	5,880	2,939	2,939	0	B
5	01047110	学校行事事業	1,491	15,845	5,352	0	A
6	01047200	教育支援事業	40,887	24,453	24,183	0	A
7	01047800	小学校管理運営事業	5,761	448,538	126,998	0	B
8	01048100	人権教育推進事業					B
9	01048600	小学校健康管理事業	6,335	20,380	18,674	0	B
10	01049200	小学校教材整備事業	5,622	68,625	42,639	0	B
11	01049210	学校安全緊急対策事業	2,788	16,973	16,208	0	A
12	01049300	小学校施設管理事業	7,315	144,935	138,729	0	B
13	01049400	小学校教育研究事業	1,282	15	4	0	B
14	01050400	中学校施設管理事業	4,186	70,122	67,099	0	B
15	01053100	小学校就学奨励事業	5,956	74,221	69,757	0	A
16	01054300	中学校教育研究事業	19,432	20,775	20,581	0	A
17	01054400	中学校就学奨励事業	5,956	44,145	41,744	0	B
18	01056500	中学校教育振興事業	815	7,074	171	0	A
19	01066800	教育委員会運営事業	5,884	5,906	5,906	0	B
20	01081650	泉佐野まなびんぐサポート事業	5,048	16,436	-2	0	A
21	01081880	泉佐野市の未来を創る教育事業	5,823	10,450	-2	0	A
合計			143,872	1,251,795	652,485	0	